

体育

教 科	科 目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
体育	スポーツⅢ	2	3年次・I2群	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
		Active Sports		3年次のスポーツ科学系列選択者

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学 習 の 年 間 計 画	学期	学習内容（単元・項目）	月	学習のねらい	評価の観点
	1 学 期	1 オリエンテーション 2 柔道独特の動きや体づくり運動 ・体ほぐし運動 ・体力を高める運動 3 受け身	4	・柔道に対する興味や関心を高める。 ・柔道独特の動きを習得する。 ・自分や仲間の体や心の状態に気付く。 ・体の調子を整え、仲間との交流を豊かにする。	1 2 1 3
		4 基本動作 5 投げ技	5	・受け身の必要性を理解し、正しい受け身がとれるようにする。	1 2 3
			6	・基本姿勢を理解し、様々な技を習得できる基礎を作る。 ・基本姿勢から技にスムーズに移行できるようにする。	1 2 1 2
			7	・相手の力や体重を利用して、技がうまくかかるように、研究する態度を育てる。	1 2 3
	2 学 期	6 柔道独特の動きや体力作り	9	・柔道独特の動きを習得する。 ・自分や仲間の体や心の状態に気付く。 ・体の調子を整え、仲間との交流を豊かにする。	1 2 1 3
		7 投げの打ち込み ・投げ込み ・乱取り	10	・打ち込み練習により投げ技がうまくできるように体の動かし方を研究したり、工夫して実践できるようにする。	1 3
		8 投げの連絡 9 立ち技連絡 10 固め技	11	・連絡技の有効性を理解させ、習得させる。 ・投げ技だけでなく、立ち技での連絡技の有効性も理解させ、技を習得させる。	1 2 3 1 2 3
			12	・基本的な固め技の種類と特徴を理解し、技のかけ方を習得する。	1 2 3
	3 学 期	11 寝技の乱取り（寝技のみの試合） 12 試合（立ち技 寝技 絞め技）	1	・寝技のみもしくは立ち技と寝技の混合で試合ができるようにさせる。	2 3
			2	・団体戦や体重別での個人戦で試合を行い、試合の緊張感を体験させ、真剣に行うことの楽しさを知る。	1 2 3
			3		

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

学 習 評 価	観点	1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○スポーツを推進及び発展するための事項及び多様に実践するための事項を理解している。 ○多様な楽しさや喜びを深く味わうための技能を身に付けている。	○映像や記録など客観的なデータから、動きの改善点の妥当性やより効果的な改善策について分析したことを、根拠を示して伝えようとしている。 ○相手を尊重するなどの伝統的な行動をしたり練習したりする場面で、自己や仲間の活動を振り返り、よりよい所作やマナーについて提案することができる。	○スポーツの推進及び発展に寄与する自己の姿勢や他者、地域社会との関わり方などのスポーツの価値を高めることに主体的に取り組もうとしている。
	手 段	・実技テスト ・個人記録、動画確認 ・定期考査の知識問題の解答	・練習中や試合中の行動の観察 ・レポートや課題の内容 ・定期考査の論述問題の解答	・授業中の態度の観察 ・提出物の提出状況 ・課題、レポートへの取組の評価
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		・授業や提出物、定期考査における「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」から総合的に評価する。 ・実技点：考査点：平常点を5：3：2の割合で評価する。	
	学習上の留意点	・実技を中心としているため出席を重視する。 ・速やかに更衣を行い、授業開始に遅れないようにする。ファイル、タブレット、筆記用具を持参する。 ・先入観を持たず、主体的に取り組む場面を増やしていく。 ・個人の身体の特徴によって記録は異なる。仲間との記録の比較ではなく、自分の記録の推移を評価し、懸命に取り組んでいる仲間を尊重すること。		